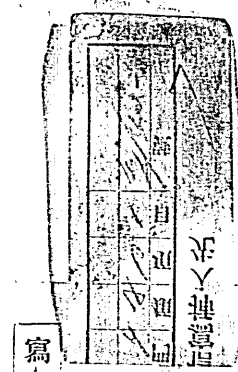


(3)

國境警察隊所屬警備艇國富号一遭難関係

F-0150

0240



大臣 次官

電信課長

東亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

供次官 覽官

分類 F180.4

昭和15 二三二七二 暗 密山 八月一日後發 本省 一日夜着 亞・歐

松岡外務大臣

合第八號

住野領事

國境警察隊警備艇國輝號及國富號ハ七月十日饒河ヨリ虎頭ニ歸航ノ途中國富號ハ饒河近傍ニテ火災ヲ起シ條艇ヲ見失ヒ日系警尉二名ハ溺死シ滿系三名ハ蘇聯警備艇ノ來襲ヲ受ケ拉致サレ前記三名ノ身柄引渡ヲ中央交渉ニ依リ七月二十九日一三時(滿洲時間)現地(遭難地所)ニ於テ行フ)コトトナリ虎頭警察隊長ヲ現地代表トシテ虎頭碇泊中ノ砲艇二隻三塔乘現地ニ向ヒタルニ蘇側ハ指定日時ニ出向キ來ラス依テ一同虎頭ニ引返シ目下中央ニ其ノ旨報告指令ヲ待チツツ

外務省

2

アル趣ナリ尙右引渡受領書中ニ記載スヘキ現場地點ハ將來ノ爲滿領國境ヲ明示スヘキ文字ヲ使用セサル様中央ヨリ指示アリタル趣ニテ當地當局ハ蘇側ハ彼等ニ有利ナル文字ヲ使用スヘキニ依リ多少ノ紛議ヲ豫想シ又此ノ種事件トシテ現地身柄引渡ハ今迄ニナキ稀有ノ取扱トシテ注目シ居レリ(了)

外務省

外務省

アル趣ナリ尙右引渡受領書中ニ記載スヘキ現場地點ハ將來ノ爲滿領  
國境ヲ明示スヘキ文字ヲ使用セサル様中央ヨリ指示アリタル趣ニテ  
當地當局ハ蘇側ハ彼等ニ有利ナル文字ヲ使用スヘキニ依リ多少ノ紛  
議ヲ豫想シ又此ノ種事件トシテ現地身柄引渡ハ今迄ニナキ稀有ノ取  
扱トシテ注目シ居レリ(了)

寫送先

外務省

本信寫挿入先

儀典 人事 調査 文化 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

次大臣

電信課長

供覽官

昭和15 二三二七二 暗

密山 八月一日後發  
本省 一日夜着

亞・歐

松岡外務大臣

住野領事

合第八號

國境警察隊警備艇國・輝號及國・富號ハ七月十日饒河ヨリ虎頭ニ歸航ノ  
途中國富號ハ饒河近傍ニテ火災ヲ起シ僚艇ヲ見失ヒ日系警尉二名ハ  
溺死シ滿系三名ハ蘇聯警備艇ノ來襲ヲ受ケ拉致サレ前記三名ノ身柄  
引渡ヲ中央交渉ニ依リ七月二十九日一三時(滿洲時間)現地(遭難  
地所)ニ於テ行フ)コトトナリ虎頭警察隊長ヲ現地代表トシテ虎頭

ノ砲艇二隻三塔乘現地ニ向ヒタルニ蘇側ハ指定日時ニ出向キ  
依テ一同虎頭ニ引返シ目下中央ニ其ノ旨報告指令ヲ待チツツ

秋

寫

機密第五六號

昭和十五年八月六日

在虎林

出張所主任 岩谷 宗隆

在滿洲國  
特命全權大使 梅津 美治 郎 殿

國境警察隊所屬警備艇ノ遭難者身柄受領ニ關スル件  
國境警察隊所屬警備艇國富號遭難ニ關シテハ客月一十五日附機密第五  
一號拙信ヲ以テ報告申進置キタルカ右遭難ニ際シ「ソ」側ニ抑留サレ  
タル滿系警察官（警尉補一、警士二）三名ノ身柄引渡ニ關シ當地警察  
本隊ヨリ概略左記ノ通り通報アリタルニ付右報告申進ス

記

國境警察隊所屬警備艇國富號ノ遭難者中滿系警察官三名ハ「ソ」側ニ

抑留サレ居ルコト判明シタルニ依リ中央ニ於テハ之カ引渡ノ交渉ノ  
結果七月二十九日十三時現地（遭難ノ場所）ニ於テ引渡スコトニナ  
リタルヲ以テ滿側代表者ハ全日早朝虎頭出發現地ニ赴キ「ソ」側代  
表者ノ來着ヲ待チタルモ遂ニ來到セサルニ依リ引渡交渉未了ノ儘引  
揚ケ再度交渉ノ結果八月五日十三時（滿洲時間）ヲ期シ引渡セシメ  
タルコトニ決定シタルヲ以テ滿側代表者一行ハ江上軍砲艇二隻及國  
境警察本隊警備艇一隻ニ分乗昨五日午前四時四十分虎頭發同日十三  
時現地ニ到着「ウスリ」江上ニ於テ「ソ」側代表「セバスタヤノ  
フ」少佐及「チモフエエフ」大尉ト會見直チニ交渉ヲ開始シ調書ニ  
署名調印ノ上警察官三名及國富號附屬ノ「ブイ」等ノ引渡ヲ受ケ十  
三時四十分無事引揚ケタリ

本信寫送附先

外務大臣 哈爾濱

秋

寫

機密第五六號

昭和十五年八月六日

第一課長

在虎林

出張所主任 岩谷 宗隆

在滿洲國

特命全權大使 梅津 美治 郎 殿

國境警察隊所屬警備艇ノ遭難者身柄受領ニ關スル件  
國境警察隊所屬警備艇國富號遭難ニ關シテハ客月一十五日附機密第五  
一號拙信ヲ以テ報告申進置キタルカ右遭難ニ際シ「ソ」側ニ抑留サレ  
タル滿系警察官（警尉補一、警士二）三名ノ身柄引渡ニ關シ當地警察  
本隊ヨリ概略左記ノ通り通報アリタルニ付右報告申進ス

記

警備艇國富號ノ遭難者中滿系警察官三名ハ「ソ」側ニ

本信照合票挿入先

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 門 | 類 | 項 | 目 | 號 |
| 4 | 6 | 1 | 1 | 1 |

抑留サレ居ルコト判明シタルニ依リ中央ニ於テハ之カ引渡ノ交渉ノ  
結果七月二十九日十三時現地（遭難ノ場所）ニ於テ引渡スコトニナ  
リタルヲ以テ滿側代表者ハ全日早朝虎頭出發現地ニ赴キ「ソ」側代  
表者ノ來着ヲ待チタルモ遂ニ來到セサルニ依リ引渡交渉未了ノ儘引  
揚ケ再度交渉ノ結果八月五日十三時（滿洲時間）ヲ期シ引渡ヲ受  
タルコトニ決定シタルヲ以テ滿側代表者一行ハ江上軍砲艇二隻及國  
境警察本隊警備艇一隻ニ分乗昨五日午前四時四十分虎頭發同日十三  
時現地ニ到着「ウスリー」江上ニ於テ「ソ」側代表「セバスチヤノ  
フ」少佐及「チモフェエフ」大尉ト會見直チニ交渉ヲ開始シ調書ニ  
署名調印ノ上警察官三名及國富號附屬ノ「ブイ」等ノ引渡ヲ受ケ十  
三時四十分無事引揚ケタリ

本信寫送附先

外務大臣 哈爾濱

秋

寫

歐亞局長

機密第五七號

昭和十五年八月十日

在虎林

出張所主任 岩谷宗隆

在滿洲國

特命全權大使 梅津美治郎 殿

蘇側ニ救助セラレタル滿蒙ノ身柄引取狀況ニ  
關スル件

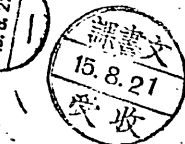
本件ニ關シテハ本月六日附機密第五六號指信ヲ以テ不致取極要報告  
申進置ノ處右ニ關シ今般虎頭憲兵分遣隊長ヨリ別紙ノ通り詳報ニ接  
シタルヲ以テ右茲ニ報告申進ス

1

追テ七月二十九日ニハ引渡地點ノ打合不徹底ナリシ爲出會シ得ス再  
度交渉ノ結果「ビギン」河口ト決定遂ニ受渡ヲ了シタル次第ナルカ  
救助當時ヨリ二十九日迄ノ間遭難者ニ對スル蘇側ノ待遇ハ頗ル手厚  
キモノアリシモ夫レ以後ハ滿側ニ於テ遭難者引取ノ熱意ナキモノ、  
如ク誤解シタルニヤ待遇振俄然手薄トナリタル趣ナリ尙ホ遭難者ニ  
對シテハ收容場所往復ノ途中常ニ目隠ヲ施セル趣ナリ

本信送附先 外務大臣、哈爾濱、東安

2



F-0150

0245

蘇側ニ救助セラレタル滿營ノ身柄引取狀況ニ關スル件報告

昭和十五年八月七日 虎頭憲兵分遣隊長 樺 澤 靜 茂

虎林領事館主任 殷

要 1 既報烏蘇里江上ニ於テ遭難セル虎頭國境警察隊警備艇國富號乗組滿營三名ハ蘇側警備艇ニ救助セラレタルコト判明爾來外交々渉ノ結果遭難地點附近ニ於テ兩者立會ノ上身柄引渡實施協定成立

旨 2 八月五日十四時「ビギン」河口烏蘇里江上ニ於テ滿營各代表者會見ノ上双方友交の狀況裡ニ滿營三名ノ身柄受授了セリ

狀況左記報告ス

左 記

一 遭難者身柄受渡ノ日時場所

日 時 昭和十五年八月五日十四時

3

場 所 ビギン河口烏蘇里江上（別紙第三参照）

二 滿營代表者ノ官氏名

滿洲國 虎林國境警察隊虎頭隊長

省警正 篠 崎 巖

以下七名

蘇聯邦 國境警備隊

ゲベウ少佐セヴァスチヤノフ

以下 名

三 引取前後ノ狀況

滿洲國側ニ於テハ八月五日四時江上軍砲艇二隻警察隊警備艇一隻ヲ以テ虎頭出發現地ニ到着セルニ「ソ」側ニ於テハ「ビギン」河口下流約五百米烏蘇里江中央江上ニ警備艇一ヲ碇泊センメ白旗ヲ立テ滿側代表ヲ待機シアリタリ依ツテ滿側ニ於テハ滿領江岸ニ停船ノ上警察警備艇ニ委員長以下七名乗船白旗ヲ振リツ、「ソ」聯警備艇ニ近

4

接投錨シ貴國ニ救助セラレタル滯留受領ノ爲滿洲國代表トシテ來レ  
ル旨ヲ述ヘ蘇聯警備艇ニ移乗セルニ蘇側警備艇ニハ「テーブル」椅  
子等ノ準備ヲ整ヘアリテ國境警備隊ゲベウ少佐一大尉一滿語通譯（  
露人）一計三名他ニ艇長一兵三名艇上ニ在リタルカ絶ヘス滯留代表  
ノ舉動ニ注意シアリタリ  
各代表艇上ニ於テ蘇側ノ作製携行セル身柄受渡調書ニ夫々署名捺印  
ノ上滯留代表ハ遼難滿警ニ對シ在「ソ」間ニ於ケル蘇側ノ取扱等ニ  
付尋問セルカ滿警三名ハ異口同音ニ在蘇間ハ好待遇ヲ受ケタル旨答  
ヘタルヲ以ツテ調書ヲ交換シ身柄受渡了シタル後滿側代表ハ蘇側  
代表ニ對シ謝辭ヲ述ヘタルニ蘇側代表ハ受難セル船員ヲ救助スルハ  
當然ニシテ今後蘇側ニ斯ル災厄アリタル場合ハ地點カ蘇領ニ在リト  
モ進テ救助ヲ願ヒ度シト述ヘ茲ニ引渡ヲ完了セルヲ以テ滯留代表ハ  
紀念撮影及乾杯ヲ申出タルニ中央部ヨリ如斯指示ナシトテ拒絶セル  
ニ依リ各代表握手敬禮ノ上滯留代表ハ遼難滿警三名ト共ニ十四時四

5

十分警察警備艇ニ移乗直ニ饒河ニ引揚タリ

遼難身柄受渡調書別紙第一ノ如シ  
交渉時各代表ノ問答別紙第二ノ如シ

彼我ノ警戒配備狀況

1 滿洲側

饒河警察本隊ニ於テハ現地江岸附近ニ日系警察官騎馬（二騎一組）  
ヲ配置シ饒河縣城西門内ニ武裝隊員二〇名（輕機二）ヲ待機セシ  
メタリ

2 蘇聯側

現地對岸ハ樹木繁茂シ其ノ詳細不明ナルモ受渡終了兵五、六名  
出現セルヨリ視レハ警戒配備セルモノニ非ヤト思料セラル、モ詳  
細不明ナリ

遼難滿警ニ對スル蘇聯ノ取調狀況（鐘警長陳述）

遼難滿警三名ハ蘇聯警備艇ニ被救助後「ビギン」？ニ輸送セラレ赤

6

軍大尉（註、身柄引渡ノ際國境警備軍大尉チモフエーフト署名ス）

ヨリ左ノ如キ訊問ヲ受ケタリ

問 所屬氏名年齢ハ

答 夫々答フ

問 虎頭警察隊ハ中隊カ小隊カ

答 中隊テス

問 虎林縣内ニ中隊カ幾ツアルカ

答 知リマセン

問 警察隊ノ任務如何

答 治安維持テス

問 警察ハ國ヲ保護スルニ非スヤ

答 ソウテス

問 虎頭ハ何レ程人家カアルカ

答 知リマセン

7

問 虎頭ノ兵力ハ

答 知リマセン

問 日軍ノ兵數ノ如何

答 解リマセン

問 見タコトナキヤ

答 見タコトハアリマスカ澤山居リマスノテ數ハ解リマセン

問 海軍ノ兵力ハ

答 解リマセン

問 公司ノ人口ハ何程カ

答 知リマセン

問 獨木河公司ノ軍隊ノ兵力警察隊ハ

答 知リマセン

問 虎頭警察隊長ノ氏名ハ

答 篠崎テス

8

問 虎林ノ兵力ハ  
答 虎林ニ行ツタコトカアリマセンカラ知リマセン  
問 オ前ハ警察官デアリナカラ知ラヌカ  
答 拜命以來虎頭ニ勤務シテ居リマスノテ知リマセン  
問 オ前ハ警察ニ入ル前ニ何ヲシテ居タカ  
答 商賣ヲシテ居リマシタ  
問 何處テ商賣ヲシテ居タカ  
答 密山縣二人班テス  
問 現在ノ俸給ハ  
答 四〇圓位テス  
問 服給與狀況如何  
答 冬服一着夏服一着貰ヒマス  
問 冬服ハ何ナ服カ  
答 羅紗服テス

問 家族數ハ又誰々カ  
答 三人テ父ト妻トテス子供ハアリマセン  
問 家ハ何處ニ在リヤ  
答 虎頭テス  
問 オ前達ハ滿洲國ニ交渉シテ歸ス様ニスルカ何ウカ  
答 其ノ様ニ願ヒマス  
六 蘇側代表者ノ等級氏名服裝  
1 代表 國境警備隊少佐  セヴァスチャノフ  
服裝 國境警備隊少佐ノ制服黒長靴ヲ穿ツ  
赤星勳章一ヲ帶フ  
2 副代表 國境警備隊大尉  チモヘーエフ  
服裝 國境警備隊大尉ノ制服黒長靴  
3 滿語通譯(露人)氏名不詳  
服裝 サージ背廣服上衣紫色袴黒色

4 艇長 氏名不詳  
服裝 詰襟紫色ノ海軍服

ヲ所見

狀況敘上ノ如クニシテ身柄ノ受授圓滿ニ終了シタルハ歐洲戰局ノ推移ニ伴フ蘇聯ノ日滿ニ對スル妥協友交的態度ニ移行セントスル一表現ト認メラル

ハ其他參考事項

- 1 遼東滿洲警備隊長ノ陳述ニ依レハ七月二十八日十二時頃ヨリ十五時迄今回ノ引渡現場ト全一地點ニ於テ待機シアリタリ
- 2 蘇聯セ少佐チ大尉ハ鐘ノ陳述ニ依リビギンヨリ來レ 者ナルコト疑ナク又遼東者ヲ取調ヘタルハチ大尉ナレハ少佐ハ「ビギン」第七七國境警備隊長ニ非スヤト思料セラル
- 3 引渡ヲ受ケタル滿洲警備三名ハ引繼キ虎頭營警察隊ニ於テ取調中ナリ

11 (了)

別紙第一

調書

一九四〇年八月五日哈府時間十四時

對岸「ビギン」河々口ノ國境河川「ウスリー」江上ノ水路ニ於テ本官等「ソ」聯邦國境警備軍代表少佐「セヴァスタヤノス」及大尉「サモヘーエフ」ヲ甲トシ滿洲國境警察隊代表篠崎警正及佐竹警佐ヲ乙トシ本調書ヲ作製スルコト左ノ如シ

記

甲ハ本日饒河ヨリ南方直線ニテ十二軒附近ノ「ウスリー」江上ニ於テ遼東ノ結果沈没セル際「ソ」聯邦國境警備船ニ依リ救助セラレタル虎林國境警察隊所屬滿洲國發勁艇國富號乘組警備隊員

一 警尉補 董 祥 林 當三十六年  
一 警士 董 家 勳 當二十二年  
一 警長 鐘 且 聲

12

ヲ甲ハ引渡シ乙ハ引受ケタリ  
被引渡者等ハ  
「ソ」聯邦國境警備軍代表ニ對シ何等異議ヲ申述フルコトナカリキ  
本調書ハ露語ヲ以テソ聯邦國境警備隊及滿洲國々境警察隊ノ爲メ各  
各一通都合ニ通ヲ作製セルモノナリ  
引渡人ソ聯邦國境警備軍代表  
受取人代表  
署 署  
名 名

13

別紙第二

引渡當時ノ狀況

「先ツ蘇聯側將校（註、副代表）ヨリ豫メ蘇側ニ於テ作製シテリタル  
調書ヲ讀ミツ、蘇聯國境警備軍代表少佐「セバスチヤノフ」副代表  
大尉「チモフエウ」ナル事ヲ述ヘ

セ少佐「貴方代表ノ名ハ」

篠崎「篠崎」

セ少佐「官名」

篠崎「舊正」

セ少佐「副代表」

篠崎「無シ」

セ少佐「當方代表二名ナルニ付貴方モ二名トセラレ度シ」

茲ニ於テ隨員中ノ佐竹警佐ヲ副代表トシテ蘇側ニ入レタリ

ニテ大尉ハ更ニ調書ヲ讀ミ上ケ調書中ノ被引渡者等ハ蘇聯國境守備軍

14

代表ニ對シ何等異議ノ申立ナカリキノ項ニ至ルヤ

篠崎「此處テ被受取人等ニ訊問シ度シ」

セ少佐「ドウゾ、誰ヲ調フルヤ」

篠崎「鐘ヲ」

セ少佐ハ船室ヨリ鐘ヲ出テ來ラシメ露人通譯ヲシテ吾方ノ取調ニ立會セシム

篠崎（鐘ニ向ヒ

「蘇側ニ於テ苛酷ナル取扱ヒヲ受ケタルヤ」

鐘「有リマセン」

更ニ篠崎代表ハ鐘ト蘇側ノ取扱ヒニ關シ二、三ノ問答ヲ爲シタルカ鐘ハ蘇側ノ待遇ニ關シ特異ノ答ヲ爲サス童ニ付テモ同シ

セ少佐（童ヲ指シ）

「此ノ男ハ指ヲ怪我シテ居ツテ醫師ヲシテ治療セジメタリ」

篠崎「有難ウ」

15

篠崎「身柄ヲ確メ度シ」

セ少佐「ドウゾ」

三名ノ首實檢ヲ爲スニ遺難セル三名ニ相違ナシ

セ少佐「デハ受取ラレタシ」

茲ニ於テ三名ノ身柄ヲ受領シ双方

セ少佐「印カ要リマス」

篠崎代表捺印ス佐竹簪佐ハ印章ヲ携行ナキ旨述ヘタル處セ少佐（結構ナリ）ト述ヘタルニ付佐竹市之進トノミ署名ス

チ大尉「浮標カアリマスカラ引取ヲ乞フ」

此ノ浮標ハ遺難者ノ一人カ携行セシニ付キ之ヲ引受ケタシ

篠崎「デハ無事終了致シマシタカラ紀念ニ寫眞ノ一緒ニ帶リ度イト申出タレハ

セ少佐「其レハ本官ニ委任セラレテ居リマセンカラ權限ハ有リマセシ」

16

篠崎「本官等ノ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表スル爲乾杯シ度イト思ヒマスカ」

セ少佐「本官等ハ與ヘラレタル義務ヲ遂行スル爲ニ來タノデアリマスカヲ御厚意ハ充分了解シテ居リマス」

當方隨員ノ一人「將來ノ親善關係ノ爲乾杯シ度シ」

セ少佐「前言ヲ繰シ更ニ」「兩國親善關係ノ保持ニ關シテ共ニ之ヲ

希望シテ居リマス」

篠崎「デハ仕方カアリマセン」

篠崎「貴官等ノ盡力ニ對シ衷心ヨリ敬意ヲ表スル旨貴國ニ傳ヘラ

レ度シ」

セ少佐「水難ニ依リ吾方領水ニ在ル者ヲ救助スルハ當然ノ義務ナリ

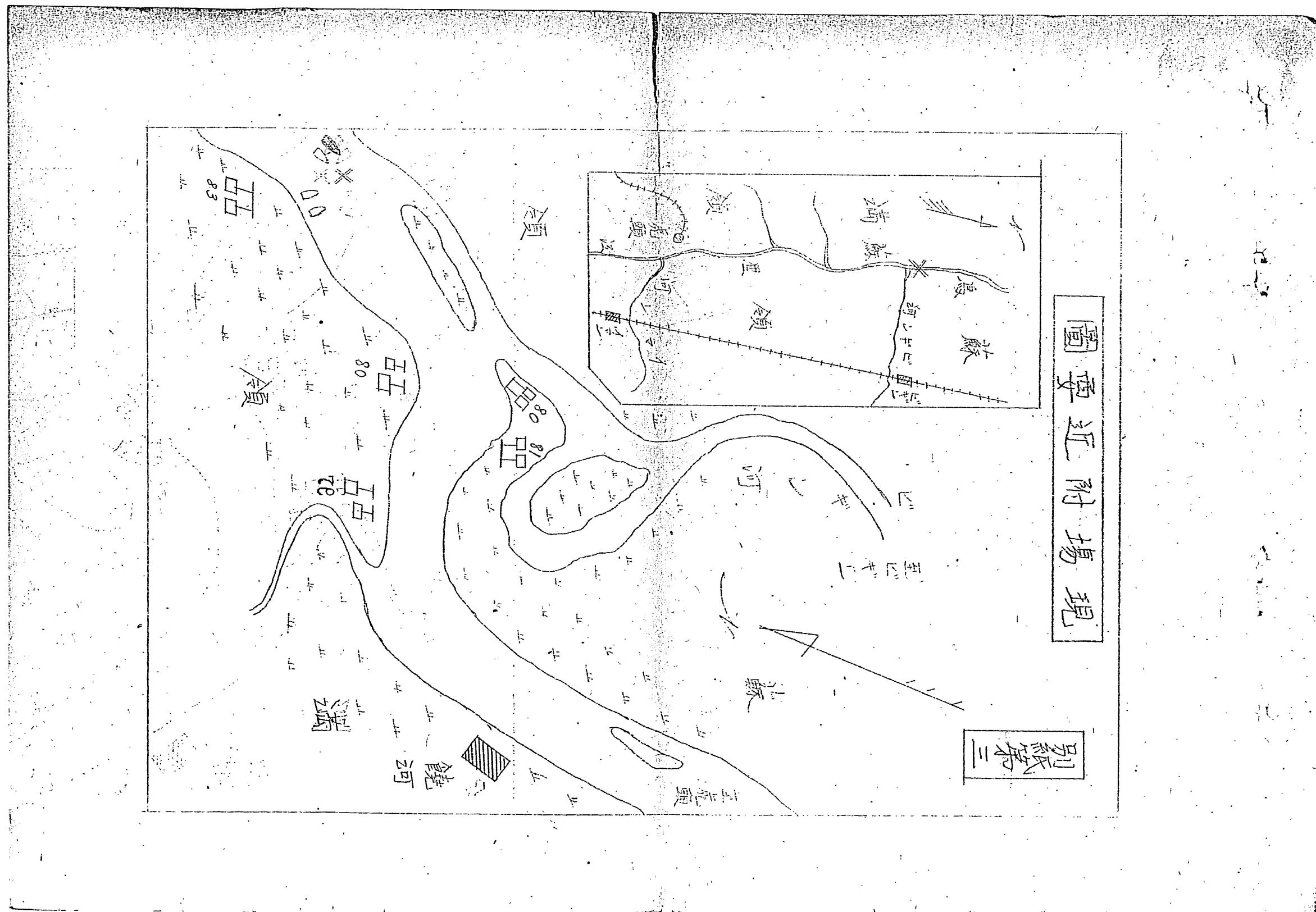
貴國ニ於テモ將來吾方ノ水難ニ依ルカ貴國側ニテ發生セル

場合ハ斯ク取リ計ハレ度シ」

セ少佐「貴國政府ニ對シ身柄引渡シヲ了シタル機會ニ於テ我方ノ敬

意ヲ傳言アリ度シ」

(了)



歐亞局長  
機密第一二四號

昭和十五年八月十二日

在東安  
領事 佐野 銀次郎

在滿洲國  
特命全權大使 梅津 美治郎 殿

警備艦國富號乘組員（三名）身柄引取状況報告ノ件

本件ニ關シ七月二十六日附州信機密第一一六號及其后電信ヲ以テ報告シタル通り最初ノ引渡シ指定日タル七月二十九日代表者ヲ現場ニ派遣シタルモ「ソ」側委員ノ來場ナク依テ一應虎頭ニ引上ケ更ニ中央トノ交渉ノ結果八月五日ト決定シ引渡シヲ受ケタリ右狀況左ノ通り報告ス

要旨

一、七月十日烏蘇里江滿洲側航路標識第七一號附近ニ於テ我警備艦國富號自沈

際餘部乗組員等ヲ救助シタル乘組員系補遺林（三六號）長錦等數名

醫士黃家勳（二二年）ハ外交交渉ニヨリ八月五日午後一時饒河北方江野

ビヤン河河口烏蘇里江上ニ於テ餘側代表セツルサイヤノフ少佐及等イ

モ「ソ」側委員ト我代表義衛正及佐竹警佐ニヨリ身柄引受ヲ了シテ

歸來后ノ供述ニヨレハ本名等ハ遺難直后餘聯警備艇ニ救助セラレ即日ビ

ヤンニ押送。病院様ノ場所ニテ身体検査ヲ受ケタル后其病院北隣ノ幕舍

ニ收容セラレ翌十一日身柄引渡ノ際ノ餘側代表タルサイヤモ「ソ」側大

尉ヨリ露人通譯ヲ介シ主トシテ虎林縣下ニ於ケル警察並ニ車ノ狀況ヲ訊

問セラレタル后再び前級幕舍ニ收容セラレ十五日ヲ經過シタル后其幕舍

ノ北隣ノ木造平家建二間房子ノ留置場ニ收容サレ引渡當日ニ至ル

一、本名等ハ七月二十八日今次代表タリシ餘聯將校二名ニ連レラレ警備艇ニ

テ今次引渡ノ場所ニ至リ正午ヨリ午後三時迄待機セル后元ニ引揚タリト

本文

一、引渡交渉日時場所

日時 康徳七年八月五日午後一時  
場所 饒河縣饒河街北方五軒ビヤン河河口國境河川烏蘇里江上ノ水路

ニ於テ

ニ引渡ヲ受ケタル者ノ表示

一 虎頭國境警察隊所屬警備艇富號乗組

警尉補 董 祥 林 (三六年)

二 虎頭國境警察隊所屬警備艇富號乗組

警 長 鐘 目 聲 (二六年)

三 同 右

警 士 責 家 勳 (二二年)

三 代表及隨員

一 滿側

代 表 警 正 篠 崎 嚴

副代表 警 佐 佐々木 四 郎

隨 員 治安部嘱託 近 藤 昇太郎

隨 員 省事務官 鈴 木 義 夫

隨 員 警 尉 西 川 清八郎

隨 員 警尉補 三 五 恒 次

機密山特務 茂 木 近太郎

二 蘇側

代 表 蘇聯國境警備軍

副代表 少佐 セワスチヤーノフ

蘇聯國境警備軍

大尉 テイセフエーエフ

四 我代表ノ行動及交渉ノ顚末

(一) 滿側代表篠崎警正外隨員六名ハ江上軍砲艇定順、永順ノ二隻ニ分乗シ

警察隊警備艇國輝(警察隊員一〇名警備ノ爲乗組)ヲ從ヘ八月五日午

前四時五〇分虎頭ヲ出發正午饒河着ノ上交渉現場タル對ビキン河河口

ウスリー江中流ニ差掛リタルニ既ニ蘇側國境警備隊警備艇(一〇噸位

、乗組員二名ヲ目撃ス機銃ナシ、無線設備アリ)一隻ビキン河河口ウ

スリー江上滿側ヨリニ五〇ミ蘇側ヨリ一五〇ミ位ノ地點ニ碇泊シ居リタ

リ

依ツテ定順、永順ノ二隻ヲ滿側江岸ニ横付ケン代表及隨員ハ警備艇ニ

テ白旗ヲ振リタリ

(二) 午後一時吾方代表ヨリ身柄引受ニ來リタル旨蘇側將校(駐代表者)ニ申出テタル處蘇側砲艇上ニ被メ設ケアリタル卓子ノ側ニ招セラレ篠崎代表及隨員三名ノミ之ニ移リテ椅子ニ掛ク

此時蘇側將校(註、代表セバスチヤーノフ少佐)「寫眞ヲ撮ル事ト筆記スル事ヲ見合ハサレ度シ」ト云フ

(三) 先ツ蘇側將校(註、副代表)ヨリ被メ蘇側ニテ作製シタル調書(別添參照)ヲ讀ミツツ蘇聯國境警備代表少佐セバスチヤーノフ副代表大尉ヲ呼ビ

エーエフナル事ヲ述ヘ  
セ少佐「貴方代表ノ名ハ」  
篠崎「篠崎」  
セ少佐「官名ハ」  
篠崎「警正」  
セ少佐「副代表ハ」  
篠崎「無し」  
セ少佐「當方ハ代表二名ナルニ付貴方モ二名トセラレ度シ」

茲ニ於テ隨員中ノ佐々木警佐ヲ佐竹警佐ナル偽名ニテ副代表トシ蘇側ニ申入レタリ

經手大尉ハ更ニ調書ヲ讀ミ上ケ調書中ノ「被引渡者ハ蘇聯國境警備軍ノ員ニ至ルヤ

篠崎「此處テ被受取人等ヲ訊問シ度シ」

セ少佐「トウソ、誰ヲ訊フルヤ」

篠崎「鐘ヲ」

セ少佐ハ船室ヨリ鐘ヲ出テ來ラシメ露人通譯ヲシテ吾方ノ取調ニ立會セシム

篠崎(鐘ニ向ヒ)

「蘇側ニ於テ苛酷ナル取扱ヲ受ケタル事ナキヤ」

鐘「有リマセン」

「更ニ篠崎代表ハ鐘ト蘇側ノ取扱ニ關シ二、三ノ問答ヲナシタルニ鐘ハソ側ノ待遇ニ關シ特異ノ答ヲ爲サス、貴ニ付テモ同シ」

セ少佐(黃ヲ指ス)

「此ノ男ハ指ヲ怪我シテ居ツタノテ醫師ヲシテ治療セシメマシタ」

篠崎「有難ウ御座イマシタ」  
篠崎「身柄ヲ確メ度シ」  
セ少佐「トウソ」  
「三名ノ首實檢ヲ爲スニ遭難シタル三名ニ相違ナシ」  
セ少佐「テハ受取ラレ度シ」  
茲ニ於テ三名ノ身柄ヲ受領シ双方署名ス  
セ少佐「判カ要リマス」  
篠崎代表捺印ス佐々木魯佐ハ印章ノ携帯ナキ旨述ヘタル處セ少佐結構ナ  
リト述ヘタルニ付佐竹市之進トノミ署名ス  
予大尉「浮標カアリマスカラ引取セフ」  
「此ノ浮標ハ遭難者ノ一人カ携行セシモノニ付之ヲ引取りタリ  
向篠崎「テハ無事終了致シマシタ紀念ニ寫眞一諸ニ撮リ度イト思ヒマス」  
セ少佐「其レハ本官ニ委任セラレテ居リマセンカラ機限ハ有リマセン」  
篠崎「本官等ノ衷心ヨリノ感謝ノ意ヲ表スル爲乾盃シ度イト思ヒマス」  
セ少佐「本官等ハ與ヘラレタル義務ヲ遂行スル爲ニ來タノミテアルカラ  
御厚意ハ充分了解シテ居リマス」

當方隨員ノ一人「將來ノ親善關係ノ爲ニ乾盃シ度シ」  
セ少佐前言ヲ繰返シ更ニ「兩國ノ親善關係ノ保持ニ關シテハ共ニ之レヲ希  
望シテ居リマス」  
篠崎「テハ仕方カナイ」  
篠崎「貴官等ノ盡力ニ對シ衷心ヨリ敬意ヲ表スル旨貴國ニ傳ヘラレ度シ」  
セ少佐「水難ニ依リ吾方領水ニ在ル者ヲ救助スルハ當然ナリ貴國ニ於テモ  
將來吾カ方ノ水難ニ依ル事件カ貴國側ニテ發生スル場合ハ斯ク取計ラレ  
度シ」  
篠崎「承知致シマシタ斯ク取計ラフコトニ致シマセウ」  
セ少佐「貴國政府ニ對シ身柄引渡シ了シタル機會ニ於テ吾方ヨリノ敬意  
ヲ傳言アリタシ」  
内斯克「テ午後一時四〇分交渉ヲ終ヘ吾方代表以下警備艇ニテ砲艇ニ至リ共ニ  
午後二時二十分饒河ニ到着一泊翌八月六日午前七時發十七時虎頭ニ到着セ  
リ」

五 交渉間ニ於ケル彼我ノ警備狀況  
交渉間ノ警戒ハ饒河本隊ニ命シビギン河河口附近滿側陸上ニ日系騎馬警備官

(二名一組)三組ヲ四門内ニ武裝隊員二〇名(輕機二)ヲ待機セシメタル  
モ代表等ノ饒河引揚ト共ニ解散セシム  
交渉現場附近係側對岸ハ樹木繁茂シ詳細不明ナルモ山頂障地附近ニ於テ交  
渉ノ終了ト共ニ兵ノ五六名出現セルヲ認メタルヲ以テ該障地ニ警備兵ヲ配  
備セルモノニアラスヤト思料セラレ

交渉現場ヨリワシ―リエヲスルヤ警備小隊迄ノ距離ハ約二軒ナリ  
六歸來警察官取調ノ結果(身柄引受后直ニ饒河ニ於テ取調タル警長鑑自聲ノ  
供述)

ノ國富號自及蘇聯警備艇ニ救助セラレタル顛末

(一)私ハ七月十日午前九時頃警備艇國富號後尾ノ方ニ腰カケテ居リマシタ

其ノ時最上警長ハ機銃ノ側ニ居リ瓦葺警尉補ハ運轉臺ニ在リ黃ハ瓦  
葺ノ隣ニ居リ董祥林ハ油槽ノ附近ニ居リマシタ何カ知ラヌカ突然バツ  
ト云フ音カシタ時ハ饒河カラ一時間余リ二時間足ラスノウスリ―江上  
テアリマシタ

其ノ時瓦葺警尉補カ「停船」ト云フト同時ニ「錨ヲ下セト」云ヒマシ  
タノテ周ト黃トハ錨ヲ下シニ行キマシタ

ソレカラ瓦葺ト最上トハ機銃ノ修理ニ當ツテ居リマシタ

最上ハ機銃ノ一部ヲ分解シ何カ入ツテ居ツタカ分ラヌカ石楠籠ノ中ニ坐ケ  
タヲ見テ居リマシタ

ソシテ機銃ノ一部ヲ取外シ油タカ水タカ剝リヌセシ機銃ノ中ニ入レマシ  
タ瓦葺ハソノ時又導ツテ入レルトタ、ハ、ハ、ト機銃カ動キ同人ハ「錨  
ヲ半分上ケロ」ト云ヒマシタノテ黃ト周トカ錨ヲ命セラレタ通りニ之ヲ上  
ケニ行ツタ時バント云フ大キナ音カシテ之ト同時ニ船火災カ起リマシタ

スルト最上ノ身体ニハ焰カ移リ同時ニ最上ハ水中ニ飛込ミマシタ  
瓦葺ハ滿系ニ對シ避難セヨト命シタノテ自分ハ銃ヲ捨て、其處ニ在ツタ救  
命浮標ヲ持ツテ水中ニ飛込ミマシタ

ソノ中ニ火力廻ツテ來タノテ瓦葺ハ董ニ船ノ底ニ敷イタ板ヲ持タセテ飛込  
マセマシタ

ソノ時滿系ハ皆江中ニ飛込ミ瓦葺ノミ艇上テ服ヲ脱シテ居リマシタカソノ  
後瓦葺カトウナツタカ分リマセン

時既ニソ聯ノ警備艇カ來テ居リマシタ(私カ艇カラ江中ニ飛込ムタ時ハ既

ニ吾カ警備艇ノ中テパンパント小銃弾ノハジケル聲ヲ音カシテ居リマシム  
艇ニ最初事故カ起ツタ位置ハ何處カ分リマセン方中之島中間ノウズリ江  
上ノ浦側立標附近ノ中流テアリマシタ其ノ番號ハ分リマセン  
(一) 蘇側ノ警備艇ハ最初事故カ起ツタ時此ノ航路圖ニ示サレタ山ノ突角(註、  
ザルビ一サ南方ノ突角)ノ方向ヨリ來テ吾カ艇ノ周圍ヲ一週リシテ引返シ  
吾カ艇ニ火災カ起ツタ時ハ前ト同シ方向カラ前ノ警備艇ヨリモ大型ノモノ  
カヤツテ來テ董ト黃トヲ救ヒ私ハ長サー〇尺位ノ太イロ一ツヲ投ケカケラ  
レタノテソレニ捕リ救ヒ上ケラレマシタ  
最上モ瓦葺ノ姿モノノ後トウナツタカ見エマセンテナシタ  
自分カ救ハレタ時迄ハ警備艇ハ燃エテ居リマシタカ鉤力下リテ下リ吾カ艇  
ハ流サレナカツタトハ思ハレマスカソノ中ニ見エナクナツテ了ヒマシタ  
私達ハ直ク蘇聯ノ警備艇ニテ前述ノ突角ノ處(註、ザルビ一サ南端)ニ連  
レテ行カレ艇ノ上テ私達ノ器具(水筒、雜囊等)ヲ取ツテ呉レマシタ  
蘇側ニ上陸后ビギンニ至ル迄ノ行動  
(二) ソレカラ蘇側ニ上陸セシメラレ西側平家木造三間房子(註、ザルビ一サ南

浦側)ニ入り直ク眼隠シヲサレテ江岸ニ近イ十尺角位ノ木造平家築ノ家  
ニ連レテ行カレマシタソノ中ハ土間テ草ヲ敷イテ居リマシタ  
其處テ脱衣ヲ命セラレ蘇聯兵カ之ヲ乾シテ呉レマシタ私達ノ衣服ハ約一  
時間位テ半ハ乾キマシタカラ私達ハ前述ノ三間房子ニ歸リマシタ  
眼隠ハ三間房子ト衣服ヲ乾シタ房子トノ往復ノミテ三間房子ニ入ツテカ  
ラハ之ヲ取リ金ヤ携帶品ヲ取リ上ケ之ヲ紙ニ包ミマシタ  
(一) 之カ終ルト私達三名共再ヒ眼隠シヲサレ再ヒ江岸ニ來テ蘇聯警備艇ニ乗  
リマシタ  
ソノ艇ハ私達カ最初其處ニ上陸シタ時上流ノ方ニ向ケ碇泊シテ居ツダト  
思ヒマス  
乗ツテカラ暫クスルト艇ハ激シイ動搖ヲシマシタ(註、此ノ警備艇ハ最  
初上流ニ向ケ航行シ暫クシテヨリ下流ニ向ケ針路ヲ變更シタルモノト判  
斷ス)  
(二) 此ノ艇ハ私達三名カ乗ツテカラ凡ソ二時間程終ツテカラ五、六〇戸アル  
部落ニ着キマシタ(註、ワシ一リエヲスルカヤ部落ナリト判斷ス)  
ソノ時太陽ハ大空ノ中心ヨリ西ノ方ニアリマシタソレハ私ノ影ヲ

在リマシタノテ分リマシタ

(一) 眼隠シハ船ニ乗ツタ時トラレ下船シタ時江岸ヲ再ヒ眼隠シヲサセラレマシタ船中ハ窓ニカ―テンカアリマシタノテ外ハ分リマセンテシタ

(二) 下船シタ處テ煙草ヲ一服飲ム位ノ間草ノ敷イテアル處テ腰カゲテ休憩シマシタ

(三) ソレカラ鉛筆位ノ太サノ綱ヲ三人テ握ラセラレマシタ

兵隊カ一番先ニ之ヲ握リ黄、私、童ノ順序テ握ツタノテス

兵ノ數ハヨク分リマセンカ四、五人位テ兩側ニハ馬ノ蹄ノ音カシテ居リマシタ

(四) 私達ハ歩ク事ヲ命セラレ愚イ路ヲ行キマシタ

坂モアリ草カ膝位ノ高サノ處モアリ濕地モアリ私ノ膝ノ高サ迄水ニ浸ツタ小川モアリマシタ此ツ小川ハ約七〇歩位テ河床ハ砂利テアリマシタ

暫ク行ツテハ林ノ中ヲ通り又暫ク行クト林ノ中ヲ通りマシタ林ト云フ事カ分ツタノハ風カ木ニ當ル音カシタノテ分リマシタ

(五) 上陸シテカラ約六時間位距離ニシテ三〇海里位ハ歩イタト思ヒマス  
ソレハ足ニ豆カ出來タ位デス

(一) 前述ノ如ク三〇海里位<sup>歩</sup>イタト思フ頃犬カ吠ヘテ居ツタノテ部落ニ入ツタモノト思ヒマシタ

私達ハ其處テ眼隠シ儘トラツクニ乗セラレ約一時間余走り木造一階建ノ丸イ家ニ入レラレマシタソレハ鐵道線路ノ西側、線路ヨリ三四〇〇米ノ地點テアリマシタ

此ノ地點カ七屋站(註ビギン)テアル事ハ其處ノ露人語通譯カ七屋站ト後テ私ニ話シマシタノテ分リマシタ

3. ビギン到着后ノ際側ノ處遇

一階建ノ家ニ着イテ自動車カラ降りルト同時眼隠ハ外サレマシタ

前述丸イ家ニハ白イ着物ヲ着タ病人カ居リマシタノテ病院テアル事ハ勿論デス醫師ノ襟章ハ<sup>赤い</sup>袖章ハ<sup>赤い</sup>テアリマシタ

(註、兩境警備隊軍醫中尉)

(二) 前述ノ家ニ入ツテカラ靴ヲ脱カセ豆ノ出來タ部分ヲアルヨールニ拭イテ早レマシタソレカラ各自ノ衣服ヲ脱カセ胸部ヲ軍醫カ聴診器ヲ當テテ打診シ他ノ二人ハ投藥セラレマシタ(實ニハ錠劑ヲ與ヘ置ニハ思前腹ニ咬マレタ傷ノ手當ヲシマシタ)ソレカラ私達三人ノ身體ヲ診リ

胸圍ヤ身長ヲ測リマシタ

ソシテ三人ニ白衣ヲ與ヘマシタ自分達ノ着物ハ乾ス爲ニ他所ニ持ツテ  
行キ麥飯(註、燕麥?)トビスケツト、黒パン、紅茶ヲ與ヘラレマシタ  
(ソノ喰ハ氏名年齢ヲ聽カレ病院北隣ノ幕舎ノ鐵製寢台ニ三人共同シク  
毛布ヲ被セテ就寢セシメラレマシタ

各隊側ノ取調

其ノ翌日ハ今日私達ヲ兩側ニ引渡シタ  
引渡ノ際國境警備隊大尉ヲシテフエーニフト署名セリカラ私達引渡ノ際  
隨行シタ露人(註、國境警備隊少尉)ノ通譯ニテ

問、虎頭警察隊ハ中隊カ

答、中隊テス

問、虎林縣内ニ中隊カ幾ツアルカ

答、知リマセン

問、警察隊ノ任務ハ何カ

答、治安維持テス

問、警察ハ國家ヲ保護スルニ非スヤ

15

答、ソウデス

問、虎頭ニハトレ位ノ人家ガアルカ

答、知リマセン

問、虎頭ノ兵力ハ

答、知リマセン

問、日軍ノ數如何

答、分リマセン

問、見た事カナイカ

答、見た事ハアリマスカ澤山居ツテ數ヘ切レマセン

問、海軍ノ兵力ハ

答、分リマセン

問、オ前ハ其處ニ居ツテ分ラヌノカ

答、アレハ海軍ガシ私ハ警察テスカラ海軍ニソシテ事カ聞カレルモノ

テスカ

問、錦河ニハ軍隊カトレ位居ルカ

16

答、饒河ニハ始メテ行ツタノテ分リマセン一同行ツテ船中テ泊リマシタ  
 カラ分リマセン  
 問、才前達ハ何シニ饒河ニ行ツタノカ  
 答、國境視察ニ行キマシタ  
 問、饒力中流ニ來テ何故停ツタノカ  
 答、故障ノ爲已ムナク停ツタノテス  
 問、獨木河ニ行ク道路ヤ公司ニ行ク道路ハ  
 答、知リマセン、歩イタ事ハアリマセン  
 問、虎頭カラ饒河ニ行ク道路ハ何里位アルカ  
 答、知リマセン、歩イタ事ハアリマセン  
 問、公司ノ人口ハ何程カ  
 答、知リマセン  
 問、獨木河、公司ノ軍隊ノ兵力、警察隊ノ兵力  
 答、知リマセン  
 問、虎頭隊長ノ氏名ハ  
 答、篠崎テス

問、虎林縣ノ兵力ハ  
 答、虎林ニ行ツタ事ハアリマセンカラ分リマセン  
 問、才前ハ警察官テソナ事ヲ知ラヌカ  
 答、私ハ拜命以來虎頭ニ居ルノテソナ事ハ知リマセン  
 問、才前ハ警察ニ入ル前何ヲヤツテ居ツタカ  
 答、商賣ヲシテ居リマシタ  
 問、何處テ商賣ヲシテ居タカ  
 答、密山ノ二人班テシタ  
 問、二人班ハトシナ處カ  
 答、一年モ歸リマセンカラ分リマセン  
 問、俸給ハ  
 答、四〇圓位テス  
 問、服ノ給與狀況如何  
 答、夏一着冬一着貰ヒマス  
 問、冬ハトシテ服カ  
 答、羅紗服テス

問、家族數ハ

答、三人

問、誰々カ

答、父、妻、テス

問、子供ハ

答、アリマセン

問、家ハ何處ニアルカ

答、虎頭ニ居リマス

問、オ前邊ハ休メ滿洲國政府ト交渉シテ歸ス様ニスルカラ

ト云フ内容取調ヲ受ケタノデアリマス

取調后今次引渡ヲ受クル迄ノ顛末

(一)私達ハスツト前述病院ノ北隣ノ幕舎ノ中ニ入レタレ用便以外ニハ出

レマセンテシタ

幕舎ノ中ニハ小銃ヲ持ツタ綠色襟章ヲ附ケタ兵力監視シテ居リマシ

タ

(一)黄ハ龜頭カラ出ル白イ液ノ出ル病氣ノ治療ヲ受ケ董ハ腹ノ咬傷ノ治

療ヲ受ケマシタ(註、黄ハ淋病ナルヤ否ヤ不明)

19

其後取調ヲ受ケス約十五日間在此處ニ滞在シタ後幕舎北隣ノ木造平

家建二間房子ノ留置場ニ入レタレ歸サレル時迄居リマシタ此ノ建物

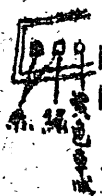
ニハ外側カラ錠ヲ下シ番兵カ立ツタ居リマシタ

(一)七月二十八日午前七時頃右留置場カラ出サレ朝食ヲ済マセテ各自寫

眞ヲ撮ラレテカラ三人一詣ニ寫シタ時ニトラツタカヤツテ來テ三人

共自動車ニ乗セラレマシタカ眼隠シサレマセンテシタ

貨物自動車ニハ私達ノ外



露人一名ト外ニ今

日ノ二人ノ將校及前述露人通譯(註、八月五日引渡交渉ノ際ノ代表

セワステイヤーノン少佐、テイセフエーニフ大尉、露人通譯通譯一

トカ乘リ正午頃今日到着シタ郵船ニ到着シマシタ此ノ由不明ノ道

ハ甚シク悪シ自動車カ大變動シマシタ

江岸ノ柳ノ生エ工合ヨリ考ヘテ私カ最初船テ上陸シタ部落デアルト

思ヒマス今日ノ部落モ同シテス(註、ワシーリエフスカヤ)

(一)斯クシテ直チニ午后三時迄今日(註、八月五日)私達カ乗ツタノト

同シ郵船ニ乗セラレ迪譯カラ今日ノ午後三時ニテレハ滿洲國ノ管

備艦力來ルノカト聞カサレ衆ツタ處ヲ巡轉聞候侍マシタラシカラ  
少シ動キ今日停船シタ處(註、引受交船地船附近ヲラム)ヲ十分間  
待チ將校ヨリ私ニ脈時計ヲ示シ「三時エナツタカオ前船ノ船ハ幾ク  
イト云ツテ自動車ノ停ツテ居ル處ニ引返シ此ノトラツクノ中ヲ私  
三名ハ泊リ兵二、三名ハ外テ監視シ將校廻ハ何處カヘ立去リマシタ  
二十七日トラツクノ中ヲ暮シ同夜モ亦コノ中ヲ寢マシタ  
(一)七月三十日ノ朝バンヲ喰ハセラレテカエ來タ黒イ路ヲ引返シテ元ノ  
留置場ニ歸リマシタソノ時ハ正午頃テアリマシタ  
(一)ソレカラ俄ニ待遇カ悪クナリ黒イ酸イバント酸イ腐敗シタ香ビノス  
ル肉入スーブヲ與ヘラレル様ニナリマシタコンナ狀態ハ今日迄續キ  
マシタ  
(一)八月五日朝時間不詳朝食后留置場ヲ出テ道ノナイ處ヲ南方ニ歩ミ西  
方ニ廻リ北方ヨリ東方ニ歩ム學三、四〇〇米ニシテ東南ニ走ル自動車  
二臺位平行シテ走レル道路ヲ横キリ二〇分位ニシテ河畔ニ出テソコ  
カラ警備艇ニ乗ツテ川(註ビヤン河)ヲ下リ七月二十八日ニ來タ部落  
ニ(註ワシーリエフスカヤ)二時間乃至三時間足ラス來ルト更ニ大

2/大

型ノ今日(註八月五日)衆ツテ引渡ヲ受ケタ警備艇ニ乗リ替ヘ一時  
間余リシテカラ河口ニ出テ十四、五分待ツテカラ警備艇ニ引渡ヲ受マシ

(一)今日衆ツテ來タノハ七月二十八日來タトキト同シ將校ヲ河口ニ出タ  
警備艇ニハ以上ノ外運轉士一、水兵服ヲ着タノカ一名ノミテアリマシタ  
部落(註、ワシーリエフスカヤ)ノ江岸附近ニ水兵服ヲ着タ兵一〇  
許リカ非武装ニテ(中一名ノミ拳銃ヲ携帯ス)居ツタノヲ見マシタ  
(一)私ハ條領ニ行ツテトンナニ待遇セラレテモ滿洲國ニハ妻モアリ食物  
モ餘聯テハ與ルノテ當方カヨイト思ヒマシタ

七 歸來遭難者携帯品

別紙目錄ノ通り

八 處置

歸來者三名ハ目下虎頭除ニ於テ引續取調中

九 所見

(一)被引取人鐘啓長ノ陳述ニ依レハ七月二十八日正午頃ヨリソ側時間十五

時迄八月五日ノ交渉現場ト同一地點ニテ特微シ居リタル趣ナリ（鑑  
警長陳述ノ項参照）若シ事實トモハソ然ニ於ケル命令ノ不徹底ニ依  
ルモノト思料セラル

（一）佐及子大尉ハ鑑警長ノ陳述ニ依リビヤンヨリ來レル者ナル事ハ  
疑ナシ且ツ遭難者等ヲ取調ヘタルハ大尉ナリシ點ヨリモ少佐ハビ  
ヤン第七七國境警備隊長ナル可ク大尉ハ向該參謀長ナル可シト思  
料セラル

（二）ソ側兩代表共所定ノ制服ヲ着シ容姿ヲ整ヘナカシ式準銃ヲ吊シモ少  
佐ハ勳章（赤旗章）ヲ表ス一ヲ佩用一シ居リ殊更ニ服裝ニ關シ微メ  
注意ヲシタル形跡有リタリ（スフ混紡トハ思料セラレス）  
（三）本名等カ録領ヲ往來セル地點ハ別添圖面ノ通りト推定セラル

本信寫送付先 外務大臣 在滿各公館長

歸來遭難者携帶品目録

一、醫尉補 董祥林 公同國境警備隊勤務

二、醫尉補制服 上下

三、衛生衣 上下

四、青色ランニング 一

五、靴（紐無） 一

六、粗末ナ馬皮靴ニシテ蘇側ヨリ奥ヘラレタルモノナリ

七、笛 一

八、印鑑 一

九、セルロイド製仁丹入器一（仁丹若干）

一十、醫察手牌 一（士第三一號）

康徳五年九月一日發給  
虎林省警備隊和氣村警備隊  
醫士 董祥林

名刺

イ、蔣軍部隊本部、李連科（聯遠）河北省  
ロ、虎林縣虎頭鎮營村自衛團團長 張壽鈺  
ハ、東安省虎林縣營林營警備隊長 林口縣警士 張海恩  
ニ、東安省虎林縣國境警備隊長 依蘭縣警士 葛丙海  
ホ、三江省依蘭縣道台警備隊長 依蘭縣警士 茫柏和

|                  |                     |                |      |
|------------------|---------------------|----------------|------|
| 6.               | ヲ                   | ル              | 一枚   |
| 7                | 衛                   | 生衣             | 上下   |
| 註、               | 本名選難時紛失セルモノ左ノ如シ     |                |      |
| 帶                | 一(官貨)               |                |      |
| 短刀               | 一(官貨)               |                |      |
| 當時銃器等携帶シテラス      |                     |                |      |
| 尙隊側ヨリ給附セラレタル物件無シ |                     |                |      |
| 三、警長             | 鐘目聲                 | (虎林國境警察隊虎頭除勦務) |      |
| /                | 警                   | 長制服            | 上下   |
| 2                | 衛                   | 生              | 上下   |
| 3                | 密                   | 察手牒            | 下    |
| 4                | 水                   | 筒              | 下    |
| 5                | 布製頭纓                |                | 下    |
| 76.              | 一三年式小銃彈             |                | 五三發  |
| 8                | シャープペンシル            |                | 二    |
| 9                | 鞍馬                  |                | 下    |
| 10               | 治安部調製「餘空軍現用飛行機」識別圖  | 一枚(實物)ノ        | 1/20 |
| 11               | 瓦斯マスク装着法(寫眞圖解)ノモノ   | 一枚             |      |
| 12               | 瓦斯防毒ニ關スル色彩圖         | 一枚             |      |
| 13               | 卷脚                  | 下              |      |
| 14               | 地下足袋                | 下              |      |
| 註、               | 一三年式小銃ハ右偏燈ト共ニ沈没紛失セリ |                |      |
| 隊側ヨリ與ヘラレタルモノ無シ   |                     |                |      |

|     |        |                      |                           |           |
|-----|--------|----------------------|---------------------------|-----------|
| 11  | 借用證    | (虎林國境警察隊用紙)          | 一國幣四〇圓                    | 本人ヨリ公司隊長宛 |
| 12  | 受領證    | (虎林國境警察隊用紙)          | 一國幣二十圓                    | 四十錢整佐長川義  |
| 13  | 國幣     | 一三圓 (一〇圓紙幣一枚、一圓紙幣三枚) | 許ヨリ公司隊員一同宛                |           |
| 14  | 帳中時計   | (SOLRA)              | 一箇                        |           |
| 本人  | 遭難     | 時紛失セルモノ              | 左ノ如シ                      |           |
| 帶   | 革      | 一(官貸)                |                           |           |
| 戰   | 鬪帽     | 一(官給)                |                           |           |
| 運動靴 | 一組     | (私物)                 |                           |           |
| 靴   | 下      | 一(私物)                |                           |           |
| 本名ハ | 公司     | ヨリ                   | 錦河ニ蛇咬傷治療ノタメ便乗セルモノニシテ銃器等ハ拂 |           |
| 行シ  | アラ     | ス                    |                           |           |
| 密士  | 制服     | 董家勳                  | 虎頭國境警察隊勤務國富乘員             |           |
| 1   | 萬年筆    | 一本                   |                           |           |
| 2   | 人造革製財布 | 一箇                   |                           |           |
| 3   | 右内容品   |                      |                           |           |
| イ   | 同人印鑑   | 一箇                   |                           |           |
| ロ   | 眼疾患診斷書 | 一枚                   | (康德七年六月三〇日錦洲省錦縣住民診療所發行)   |           |
| ハ   | 同人名刺   | 一枚                   | (虎頭勤務)                    |           |
| ニ   | 滿洲國貨幣  | 金五十四錢整               | (十錢四箇、五錢二箇、一錢四箇)          |           |
| セ   | 戰鬪帽    | 一箇                   |                           |           |
| ス   | 式黒布靴   | 一足                   |                           |           |

辭文

調書

一九四〇年八月五日哈爾濱時間十四時對ヒヤン河河口ノ國境河川ウスリー江上ノ水路ニ於テ

本官等蘇聯邦國境警備軍代表少佐セウステイヤーノフ及大尉ゲイセツム  
一ニフヲ甲トシ滿洲國境監察隊代表篠崎正及佐竹益佐ヲ乙トシ本調書  
ヲ作成スルコト左ノ如シ

甲ハ本日俄河ヨリ南方直線ニテ十二軒附近ノウスリー江上ニ於テ運搬ノ  
結果沈没シ蘇聯國境警備船ニ依リ救助セラレタル虎林國境監察隊所屬滿  
洲國發動艇國富號乘組警務隊員

一、警尉林重祥 林 當三十六年

二、警士黃家勛 當二十二年

三、警長鐘目聲 當二十六年

ヲ甲ハ引渡シ乙ハ引受ケタリ

被引渡者等ハ

ソ聯邦國境警備軍代表者（複數）ニ對シ何等異議ヲ申述フルコト無カリ  
キ本調書ハ露語ヲ以テ蘇聯邦警備軍代表及滿洲國境監察隊代表ノ爲メ各  
27

々一通都合二通ヲ作成セルモノナリ

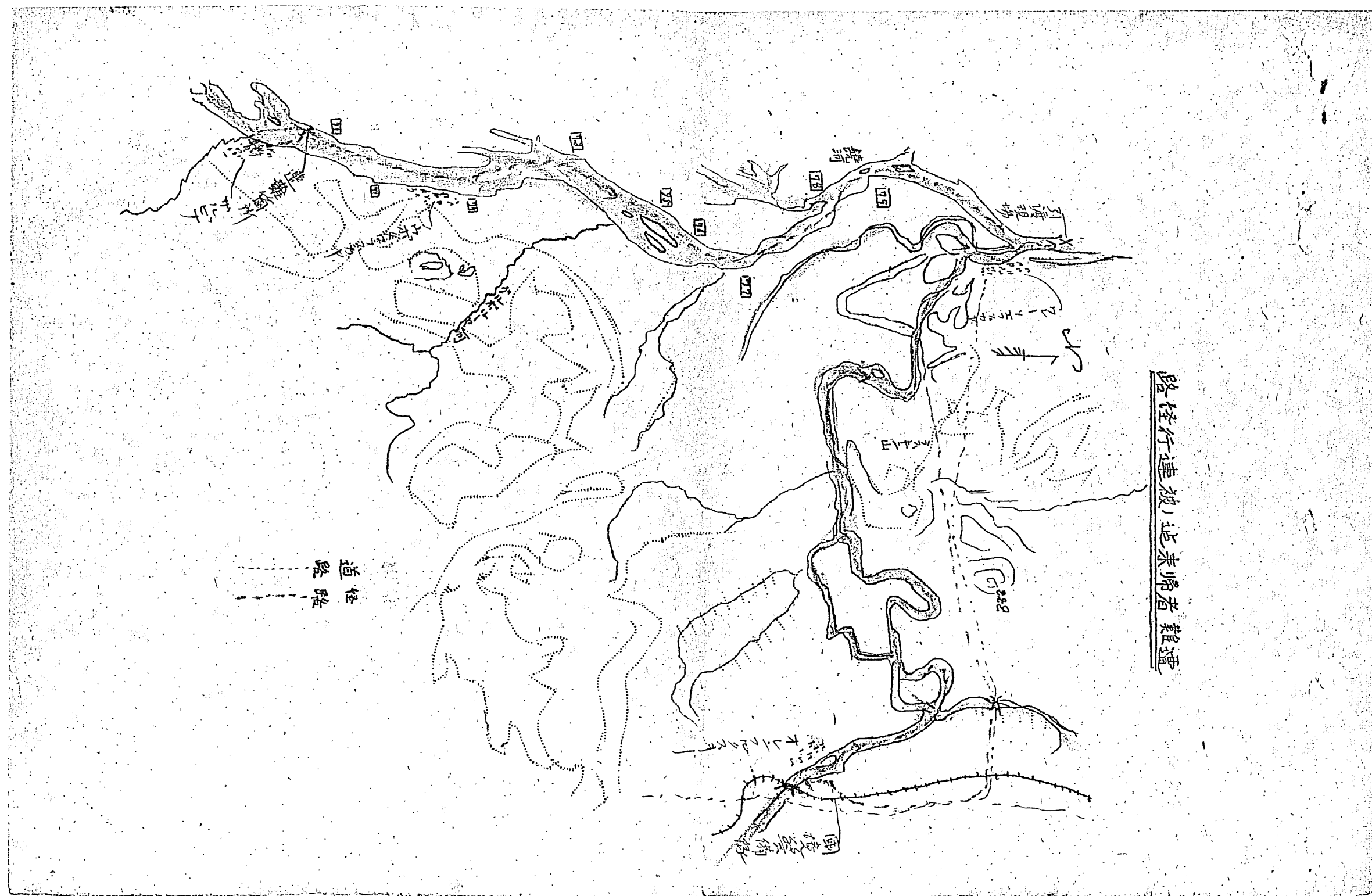
引渡人 ソ聯邦國境警備軍代表 セウステイヤーノフ（署名）

ゲイセツム（署名）

引取人 代表

篠崎 政（署名）

佐竹 市之進（署名）



分類 F. 1. 8. 0. 4



機密第一三四號

昭和十五年八月二十二日

在滿洲國  
特命全權大使 梅 津 美治郎 殿

蘇側ニ救助セラレタル國富號乗組員ノ身柄引受ニ關ス  
ル通報

本件ニ關シ八月十一日附拙信第一二四號ヲ以テ報告シ置キタル處右被救助  
者ノソ聯取扱振リ其他取調調査入手ニ付報告ス

聽 取 書

本籍 錦洲城内南街如意湖衛  
住所 虎林警察隊虎頭隊  
職業 警士

任 東 安  
領 事 任 野 銀次郎



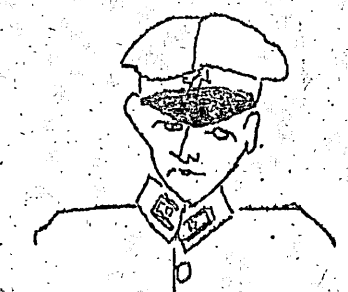
(記)

虎林國境警察隊所屬遭難警備機國富號  
乗員引渡交渉ニ蘇聯側國境警備軍代表



佐少アヤスガバ

一、頭部赤星勳章ヲ佩ス  
一、肥満シ眼尻下リ  
一、二重脣ナリ  
一、身長五尺五寸位  
註ビギン同境警備隊長ヲ以テ恩料ス  
若下日本語ヲ解ス



尉大アエエマケ

一、身長五尺五寸位  
一、瘦身  
一、眼尻下リ  
註同上係隊長ノ恩料セラレ

黄 家 勳

民國九年七月五日生當二十歲

右ノ者康德七年八月七日虎頭警察隊ニ於テ本職ニ對シ左ノ通り供述ヲナシタリ

「私達ハ午前八時三十分魯爾艇廠富ニテ饒河ヲ出航シ時間ニシテ約一時間里程ニシテ約二十五六里航行シタト思ハレタ時突然艇ノ航行カ停止シマシタ其ノ時私ハ操從席ノ後方長椅子ニ董警尉ト腰ヲ掛ケ瓦葺艇長ノ操從席ニ在リテ操從中最上警長ハ私達眞向ヒノ長椅子ニ横ニ成ツテ寢テ居リマシタ其ノ他ノモノハ何レモ機關ノ兩側ノ空席ニ腰ヲ掛ケテ居リマシタカ艇ノ航行停止ト同時ニ機關モ停止シテ其ノ時最上警長ハ驚イタ様ニ飛ヒ起キ機關ノ方ニ走ツテ行キ空氣コシ機ヲ視テ居リマシタカ「キヤブレッツター」空氣吸入穴ニ「ガソリン」ヲ注入シマシタラ微動テハアリマシタカ機關カ動キ出シマシタ瓦葺艇長ハ直ニ私ト周鳳治トニ命シテ錨ヲ下サセ錨カ下リルト同時刻ニソ聯警備艇カヤツテ來ル様子ナノテ瓦葺艇長ハ艇員ニ對シテ警戒配置ヲ命シマシタ私ハ周鳳治ト共ニ輕機ヲ以テ艇ノ「トモ」ニ位置シテ警戒ニ當リ他ノモノモ銃ヲコメ配置ニツキマシタ

其ノ時「ザルビーナ」方面ヨリ我カ國富ヨリ少シ許リ大キナ蘇聯警備艇ハ國富ヨリ僅カ十五六米迄接近シテ附近ヲ除行シ暫クシテカラ再度「ザルビーナ」方面ニ引返シマシタ蘇聯警備艇カ引返スト共ニ瓦葺艇長ハ錨ヲ水際マテ正ケロト命シマシタノテ私ト周鳳治トハ錨ヲ上ルベク艇ノ「トモ」ニ行キ錨ヲ水際迄上ケ周鳳治ハ舳方ニ行キ私獨リカ錨ヲ支ヘテ居リマシタトコロ突然「キヤブレッター」空氣吸入穴ヨリ發火シ火ハ艇全体ニ燃エウツカリマシタ發火ト同時ニ最上警長ハ前半身ニ引火セルママ江中ニ飛ヒ込ミ周鳳治ハ救命器ヲ以テ江中ニ飛込ミ瓦葺艇ノ長ハ董警尉補ニ對シテ艇數枚ヲ持タシメテ江中ニ避難サセ様トシテ居リマシタ

其時私モ身ニ危險ヲ感シマタノテ何モ持タズニ江中ニ避難シマシタ瓦葺艇長ハ續イテ江中ニ避難シタ様テス其ノ後ノ狀況ハ余リ良ク存シテ居リマシタカ私カ江中ニ溺死スル様ニ成ツテ居ルト董警尉補カ警備艇上ヨリ防舷物ヲ投ケテ與ヘタノテ其ヲ持ツテ江中ヲ泳テ居ルト警備艇ニ置テ有ツタ銃彈ノ發裂スル音響カ聞ヘテ來マシタ暫クシテカラ艇ハ大音響ト共ニ爆發シテ沈下シタ様テ全ク艇ノ姿ハ見受ケマセンテシタ其ノ中ニ何時ノ間ニカ「ザルビーナ」方面ヨリ蘇聯警備艇カ來テ先董警尉補ヲ救ヒ上ケ其ノ次ニ私ニ棒ヲ差シ延テ來タノテ私ハ救ツテ來レルト思テ其レヲ握ツテ船邊ニ寄りマシタ

處ヲソ聯警備艇員二名カ兩肩ヲ抱ル様ニ救ヒ上ケ其レカラ鐘警長ヲモ救ヒ揚  
ケマシタ

蘇聯警備艇上ニ救揚ケラレテカラ幾人ノ乗組員カ來タ救ツテ居ラヌ者ハ無カ  
ト言語カ通シナイノテ動作テ未タ三名救ワレテ居ナイ旨答ヘマシタヲ解ツタ  
様テシタカ別ニ捜査スル様ナ事モナク其儘「ザルビーナ」ヘ連レラレテ行キ  
下船ト同時ニ眼隠シヲサセラレマシタ

茲ニ於テ兵營ノ模様ヲ明瞭ナラシムル爲ニ左ノ問答ヲナシ

問 其ノ許ノ連行サレタ兵營ヲシキモノハ江岸ヨリ何程アリヤ兵營内ノ模様  
ヲ詳細ニ述ヨ

答 兵營ハ江岸ヨリ三十歩位ノ處ニ三棟ノ家屋カアリマシタ一棟ハ満間テ三  
間房子一棟ハ五六軒位ノ房子テ二棟トモニ五米位離レテ建テテアリ一棟  
ハ二棟ヨリ遠ク離レテ約百米ノ地點ニ一間房子位ノ何レモ木造平家建ノ  
家屋カ有リマシタ最初取調ヲ受ケタ三間房子ハ單ナル空屋ノ一部ヲ事務  
室ニ代用シテ居ル様ナ有様テシタカ他ノ五六間房子ハ兵ノ出入スル狀況  
ヨリ見テモ兵營ヲシク想ハレ兵モ五六〇名ハ收容出來得ル建物テシタ  
兵營ニ出入スル兵ハ總テ綠ニ朱線ノ入ツテ居ル帽子ヲ戴テ居リマシタ  
一番遠ク離レテ建テアル家屋ハ隣見シタ結果ニ依リマスト倉庫ヲシク想

問

ハレマス其ノ他ニハ家屋ハ見當リマセン

「ザルビーナ」ヨリ上船後ノ事ニ就キ詳細ニ述ヘヨ

上船ト同時ニ眼隠シヲ取ラレマシタカ船ハ上流ニ行ツタ様ニ想ハレマシタカ  
出航後間モナク船ハ大變動搖シマシタカ或ハ下流ニ行ツタノカモ知レマセ  
シカ約一時間位行キタル頃停船致シマシタ私ハ下船スルト同時ニ再度眼隠ヲ  
サレ十分間位休憩シテカラ蘇聯兵カ鉛筆位ノ太サノ繩ヲ三人共ニ握ラセラレ  
テソレヲ引キナカラ私達ヲ誘導シナカラ步行ヲ出發シマシタ

問

下船スル時上陸地點ノ部落狀況ハ如何

下船シタ地點狀況ハ僅ニ船ヨリ渡サレタ渡板ヲ渡ル時タケ見タノテスカラ只  
柳樹ノ繁茂シテ居ルハカリ他ハ見マセンテシタ

問

誘導サレタ道路並ニ沿道狀況ヲ述ヨ

道路ハ僅ニ細道テアリマシタ草カ胸ノ邊迄繁茂シテ居リ且濕地地帯アリ山腹  
アリ林アリ頗ル歩キ難キ動路テアリマシタ其ノ道路ヲ約五時間位歩キマシタ  
カ途中ハ五六名ノ蘇聯兵ニ護送サレマシタ其ノ後廣イ道路ニ出マシタカラ貨  
物自動車カ待テ居テ直ニ乗車サセラレマシタ  
目隠ノ儘テ自動車約二時間位走テ居リマシタカ鐵路ハ甚タ悪ク車ノ動搖モ大  
變アリマシタ自動車ノ停メタ處ハ大キナ街テ電燈モアリ自動車道路モアリ  
當入口ノアル處ト思ワレマシタ

自動車カラ降りマシタラ圓形ノ病院ラシキ木造家屋ニ連行サレ車醫ラシ  
キ者ノ診勘ヲ受ケ投棄サレ衣類ハ洋服ニ替サセラレ附近ノ天幕舎ニ連行  
サレ幕舎内ニ休憩ヲ命セラレテ居リマシタ暫クシテ「白パン」「ビスケット  
」「スーヴ」等ノ食事ヲ與ヘラレマシタ  
食事カ済ム頃私ハ呼出サレマシタソシテ蘇聯ノ軍官ト左ノ問答ヲ致シマ  
シタ

蘇聯軍官ノ

問 何處ニ行ツタカ

答 饒河ニ行キマシタ

問 船ハ如何シテ故障シタカ

答 如何シタカ知レマセンカ故障ヲ生シマシタ

問 才前達ノ船カ火災ヲ起シタカラ救ツテヤツタノタ御禮ヲ言ヘ

答 如何シテ御禮ヲ申サズニ居ラレマセウカ有難ウ

註 此ノ時蘇聯軍官ハ失笑シ

問 才前ノ船ノ乗組員ハ何名カ  
答 六名

6

問 才前達警察官ハ何ンナ勤務ヲシテ居ルカ

答 巡哨、警邏

問 才前ハ警備艇ニ於テ何ンナ勤務ヲシテ居タカ

答 艇ノ掃除ヤ機械ノ手入ヲシテ居リマス

問 虎頭ニ機雷ヲ居ルカ

答 居リマス

問 滿軍ハ如何ヲ吞ムカ、料理店ニ行クカ（註飯館子）

答 平常ハ吞ミマセンカ日曜ニ出テ料理店ニ行ク様テス

問 才前警察ノ任務如何

答 治安維持

問 治安維持トハ何カ

答 討伐ヤナンカテス

問 才前ハ何時警察官ニナツタ

答 昨年十一月警察官ニナリマシタ

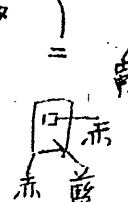
問 才前ノ月給幾圓ナリヤ

答 私ハ二十圓貰ヒマス

問 警察官ハ出願ナリヤ將又強制徵募ナリヤ

答 出願者中ヨリ採用シマス  
 問 歳ハ幾ツカ  
 答 三十一歳デス  
 問 學校ニ行ツタカ  
 答 三年行キマシタ  
 問 學校ハ何處カ  
 答 三台テ行キマシタ  
 問 救ハレタ者ノ内ニ虎頭隊員何名カ  
 答 二名デス  
 問 救ハレタ者ノ内ニ虎頭隊員何誰ニ誰カ  
 答 鐘自聲ト黃家勳  
 以上ヲ以テ終リ  
 歸ツテ寢ロト命セラレマシタカ其ノ時取調室ニ掛ケテアリマシタ時計ハ  
 午后十時一分テアリマシタ茲ニ於テ監官並ニ取調官ノ服裝並ニ階級ヲ明  
 瞭ナラシムル爲左ノ問答ヲナス  
 問 取調官ハ如何ナル服裝ヲナシアリヤ  
 答 八月五日私達拉致者ヲ滿洲國ニ引渡シタ露人將校テ襟



ノ章附ケ又引渡シノ際隨行シタ黒色背廣服ヲ着タ人テ其ノ時ハ矢張  
 リ制服ヲ着シ  
 問 監官ノ服裝ハ  
 答 監官ノ服裝ハ襟ニ  
 天幕ニ歸ツテ寢マシタ  


其レカラ六、七日間ハ天幕内ニ寢起サセラレマシタカ幕外ニ出ルコ  
 トハ絶對ニ禁止セラレ僅カニ用便ノ時蘇聯兵監視ノ許ニ出ル位デシタ其  
 ノ他ハ食料モ豊富ニ支給サレマシタ  
 監禁サレタ附近ノ状況ハ圓形ノ病院北側ニ新築中ノ木造二階建ノ滿間十  
 間房子ノ兵舎ラシキモノアリ窓數「二〇等」ハ概ネ建築ヲ終リ内部ノ構  
 造ニ着手中尙病院ヲ中心トシテ三、四十名收容ノ天幕十四五アリ各幕舎ト  
 モ綠色ニ赤線入りノ帽子ヲ冠リタル兵士ニ依リテ充滿シアル様デシタ  
 病院北側百五〇米ノ地ニ滿間ニテ二間房子位ノ監房アリ四房室ニ別レテ  
 居リマシタ

註 本供述ニ依リ別ニ附近要圖ヲ作製ス別圖參照  
 十四五日天幕露營ノ後通譯カ申シマシタ降雨其ノ他テ身体ヲ害スルカラ

院「バーリス」(監房)ニ入レロトノ話テ三名共ニ監房ニ移サレ其所ニ  
テ十日ト想ハレマスカ日數ハハツキリシマセス、二十八日ノ午前二時頃ト想  
ハレマスカ通譯ニ呼ハレテ監房南側ノ事務室(警察隊廳舎)ニ呼ハレ五日私  
ヲ滿洲國ニ引渡シタ少佐(後ニテ少佐ナルコトヲ知ル)カ通譯ヲ通シテ滿洲  
國ニ歸リタキカ否ヲ問フタルヲ以テ歸國シタキ旨ヲ告ケルヤ再度監房ニ收容  
サレマシタ翌二十八日午前八時頃朝食後監房内ニ於テ寫眞ヲ一人一人撮リ撮  
影後三人ヲ一諸ニ撮影シ後監房ヲ出テ來マシタ  
客車ト貨物自動車カ監房ノ前ニ待ツテ居リマシタ客車ニハ私達五日ニ引渡シ  
ニ來タ少佐ト大尉外ニ通譯カ乘車シ先行ス私達ハ後ノ貨物自動車ニ乗セラレ  
下士官ラシキモノノ引卒スル七名ノ兵士ニ護送サレ客車ニ隨行シテ行キマシ  
タ貨物自動車ハ道路ノ悪イ山坂道ヲ約三時間位走ツテ後停車シマシタカ降サ  
レタ處ハ部落テアリマシタ(註ワデエリシカヤ)其レカラ目隠シナク蘇聯兵  
ノ指示ニ從ヒテ警備艇ラシキモノニ乗船サセラレマシタ乗船シタ時午前十一  
時半頃ト想ヒマス乗船後艇ニ待ツコト約三時間余リテシタカ其ノ間モ外部ヲ  
見ル事モ許サレマセン午後三時頃ト成ツテ同様ノ幹部カ來ルト同時ニ船ハ出  
航ス二十分間位シテ私達カ五日引渡サレタ地點ニ停船シテ約三十分待ツテ

居タ様テスカ滿洲國側ノ船カ來ヌカラ引返シテ來マシタ  
茲ニ於テ停船點ヲ明確ナラシムルタメ左ノ問答ヲナシタリ

問 如何ニシテ五日ノ停船地點ナル事ヲ察知セルヤ  
答 私カ小便ニ艇上ニ出タ時見タ山ト形狀テ概ネ同一地點テアル事ヲ察知  
シマシタ

引返シタ後ハ貨物自動車ニ乗車シ二十八日貨物自動車ニ宿泊シ二十九日ハ  
用便以外ハ決シテ外出ヲ許サレズ附近ハ三名ノ蘇聯兵カ警戒ニ當ツテ居リ  
マシタ三十日午前八時頃出艇シテ元來タ道ヲ通ツテ元ノ監房ニ歸リマシタ  
其ノ時ハ午後一時頃ト想ヒマシタハツキリシリマセン  
其ノ后五六日監房ニ居ツタト想ヒマスカ其ノ間待遇ハ以前ト異リ食料モ  
黒パントナリ「スーブ」ハ腐敗肉ヲ給セラレマシタ  
五日即滿洲國ニ引渡シサレル日午前七時頃朝食ヲナシ後午前八時頃監房ヨリ  
出サレ自分ノ携帶品ハ總テ渡サレテカラ五名ノ兵ニ誘導サレ監房ノ東側ヲ  
廻ツテ約二滿里ヲ歩イテ江岸ニ出テ參リマシタ其ノ時概ネ九時頃ト想ヒマ  
ス

此處ニ於テ終リマシタ事ヲ察知セリ

ソレカラ直ク船ニ乗ツテ二十八日來タ「ワシリエスカヤ」ニ來マシタ  
ラ私達ノ乗ツテ來タ船ヨリモ大キイ警備艇カ待ツテ居リマシタカラ三十  
分位シテ其ノ警備艇ニ乗換ヘサセラレマシタ其ノ時刻ハ露ネ正午頃テス  
ソレカラ艇ハ直ニ出航シ三十分位シテ停船シ其所ニ待ツコト一時間位  
滿洲國ニ引渡サレマシタ

供述者 黄 家 勳 ㊤

右錄取シ讀開カセタルニ相違ナキ旨申立テ署名捺印シタリ

康德七年八月七日

虎頭警察隊  
司法警察官 警佐 佐々木四郎 ㊤

聽 取 書

本籍 錦州省遼中縣沙河站村  
住所 穆和中隊公司隊  
職業 警察官

董 祥 林

當三十六年

性別 男

右ノ者康德七年八月七日虎頭警察隊ニ於テ本廳ニ對シ左ノ通り供述ヲナ  
シタリ

私ハ七月九日蛇ノ咬傷治療ノ爲虎頭隊警備艇ニ便乗シ饒河ニ至リ治療後  
七月十日午前八時頃再度警備艇函富ニ便乗ヲ許サレ原隊ニ歸隊スル途中  
警備艇ハ饒河出航後一時間半位ノ地點ニ於テ突然機關ニ故障ヲ生シ停船  
致シマシタ其時最上警長ハ私ノ直ク前ノ長椅子ニ横ニナツテ居リマシタ  
カ機關停止ト共ニ飛起キ機關ニ馳付ケ故障排除ニ努メテ居リマシタ  
瓦葺警尉補ハ乗組員ニ命シテ錨ヲ降サセマシタ

13

其ノ頃テシタカ「ガルビーナ」方面ヨリ蘇聯側ノ警備艇カ我艇ニ向テ高速度テ來ル姿ヲ認メタ瓦葺警尉補ハ乗組員ニ對シ警備配置ヲ命シテ居リマシタ

其ノ時蘇聯ノ警備艇ハ我カ警備艇ノ二十尺位ノ地點迄近接シ暫ク徐行シツツ我警備艇ノ様子ヲ視察シテ居ル様テシタカ又元來タ「コース」ヲ「ガルビーナ」方面ニ歸ツテ行キマシタ

其ノ時最上酋長ハ石油罐ヲ半分ニ切ツタ様ナ罐カラ「ガソリン」ノ様ノ物ヲ「キヤブレータ」ニ入レテ居タ様テ入レ終ツテカラ最上酋長カ瓦葺警尉補ニ對シテ何事カ話シマシタ瓦葺警尉補ハ「スイツチ」ヲ押シタ様テスルト機關ハ動キ始メマシタ

瓦葺警尉補ハ乗組員ニ命シテ錨ヲ揚セマシタカ最上酋長ハ何カ知レマセシカ「ガソリン」ヲシキ物ヲ機關ノ或ル部ニ注入シテ居リマシタト口突然「キヤブレータ」ヨリ發火シ最上酋長ハ全身火達磨ノ様ニナツテ江中ニ飛込ミ其ノ中ニ火勢ハ愈々盛トナリマシタ

瓦葺警尉補ハ乗組員ニ對シソレソレ救命器ヤ防舷物ヲ持タシメ江中ニ避難サセマシタ

14

私ハ蛇ノ咬傷サレタ腕カ痛ク身体ノ自由カ出來マセヌノテ如何ニ仕様カト月思案シテ居ルト瓦葺警尉カ避難ヲ強制スルノテ致方ナク錨綱ニスカリナカラ江中ニ避難シマスト艇上カラ瓦葺警尉補カ木板ヲ投ケテ與マシタカラソレニ據リ漸ク泳テ居リマスト蘇聯ノ警備艇カ來テ救ツテ呉レマシタ

ソシテ「ガルビーナ」ニ進行サレ擲行物ヲ取上ラレ衣類ヲ乾シタ後再度警備艇ニ乗艇ヲ命セラレテ尙艇カニ行キマシタ

(此ノ時「ガルビーナ」ノ狀況ヲ明ニスル爲要圖ヲ作成シテ添付)

艇ニハ約一時間位乗テ下船シマシタ下船スル時ハ目隠ヲシテ居リマシタカラ其ノ附近ヲ見マスト江岸二百米位離レタ處ニ滿間ノ三、四間位有ル兵營カアリマシタ

兵營ト言フ事ハ綠色ノ帽子ヲ冠テ居ル兵カ立テ居ル事ヲ想像サレマス江岸カラ二百カ百五十米位ノ地點ニ六七戸ノ民家カ散在シテ三々五々ノ子供ノ姿モ見受ケラレマシタ五日ノ日私カ滿洲國ニ取ラレタ所ノ對岸カ「ワシリエシカヤ」タトスレハ私カ下船シタ處ハ山形ヤ其他カラシテ「ワシリエフシカヤ」ト想ハレマス下船ト同時ニ部落カラ二名ノ將校カ

來テ私達ニ目隠ヲ命シマシタ將校ノ階級ヤ其他ハ記憶カアリマセン  
三人ハ一本ノ綱ヲ握ラセラレ黃家勳カ一番先ニ鐘自聲カ中央ニ私カ後尾ニ  
從隊トナツテ一番先頭ノ綱ヲ餘聯兵カ持テ誘導サレ乍ラ出發致シマシタ  
沿道ノ事ヲ申スト百五六十米ノ處カラ余リ急テナイ坂道ニ差掛リ坂道約兩  
里一里餘リテ比較的平坦ナ道ニ出テ平坦道ヲ一里位歩テ濕地地帯ニ入りマ  
シタ此ノ道路ハ甚タ悪ク細道カ有ツタカ平常ハ通行人モ無イ處ナ所ト想ハ  
レマシタ

此ノ道ハ約十餘里位歩イタト想ハレマスソレカラ自動車ノ通り得ル様ナ廣  
イ道路ニ出テ其ノ道路ヲ約三餘里位歩キ小河ヲ渡河致シマシタ  
其ノ小河ハ深サハ二尺位テ巾十米位アツタト想ハレマス渡河ニ三十米テ後  
カナ細イ坂道ヲ上リ三四里歩キ下リ坂ヲ登リ米俵降りルトシタカラ再度濕地地帯五  
六里通テ平坦道ニ出タ時貨物自動車カ來テ待ツテ居リマシタ  
其ノ附近ハ部落ラシイモノカ有ル様テシタ犬ノ鳴キ聲モ聞テ來マシタ歩  
行シタ時間ハ概ネ四時位ト思ヒマス步行途中ハ前後左右警戒員四名外ニ  
兵モ二騎程アリマシタ自動車ニ乗セラレテカラ余リ平坦テナイ道路ヲ二  
時間位走ツテ自動車カ停ツ處ニハ停車場カラ一里位ノ處テ停車場モ見

所テ時刻ハ午后九時頃テス停車場ト書フ事ハ汽車ノ往復並ニ停車シテ居ル汽  
車ヲモ解リマス停車スルト直ニ病院ニ入レラレテ軍醫ノ診斷ヲ受ケ身体ノ檢  
査ヲナシ衣類ヲ與ヘラレテ食事ヲ済マシ後國境警察隊廳舎樓上ニ進行サレ左  
ノ訊問ヲ受ケマシタ

問 何處ニ行クカ

答 警備艇ハ饒河ニ國境巡視ニ行キ私ハ使乗テ咬傷治療ニ行マシタ  
問 オ前ハ何處ノ警察隊カ

答 公司ノ警察隊テス

問 オ前ハトシナ勤務ヲシテ居ルカ

答 國境監視ニ當ツテキル

以上ノ訊問ノ上病院北側ノ天幕舎内ニ歸サレマシタ訊問官ハ階級ハ記憶アリ

マセンカ通譯ハ五日私達ノ引渡ノ際隨行シテ來タ黒背廣ヲ着タ男テス

翌日午前十時頃再度呼出サレ左ノ訊問ヲ受ケマシタ

問 虎林縣ノ軍情ヲ知ラヌカ

答 虎林ノ事ハ知リマセン

問 虎林ニ停車場カアルカ

答 有リマス

問 縣公署ハ何處ニ在ルカ  
 答 縣公署モ本隊モ在ルカ地點ハ知リマセン  
 問 虎林街ノ面積如何桂カ  
 答 正確ナ事ハ知リマセンカ長サ巾トモ（満）十里位ノモノテス  
 問 虎林本隊ニ幾ツノ隊アルカ  
 答 十幾ツノ隊カアリマス  
 問 虎林本隊ニハ幾名ノ警察官カ居ルカ  
 答 概ネ千名位テス  
 問 公司隊ニ於テ擔任事務ハ如何  
 答 私ハ班長ヲシテ居リマシテ部下十幾名ヲ持ツテ居リマス  
 問 警尉補ハ貴隊ニ幾名ヤ  
 答 十一名警尉補カ居リマス  
 問 公司隊ハ幾名ノ隊員アリヤ  
 答 百二十名アリマス  
 註 此ノ時私ハ正確ナ數ヲ答ヘル事ハ防備上危險ト想ヒマシメカ  
 テス  
 問 日系警察官ハ何名アリヤ  
 答 六名居リマス

問 隊長ノ階級ハ  
 答 隊長ハ警佐テス  
 問 警尉幾人カ  
 答 三名アリマス  
 問 日系ハ幾名カ  
 答 日系一名滿系一名テス  
 問 隊長ノ名前ハ  
 答 長谷川  
 問 日系警尉ノ名前ハ  
 答 植村テス  
 問 滿系警尉ハ  
 答 馬警尉テス  
 問 警尉補ノ名前ハ  
 答 第一班秋、第二班張、第三班刘、第四班郭、第五班ハ私テス、第六班ハ趙、第七班ハ吳警尉補テス、第八班ハ關警尉補

問 外ニ隊ハ無イカ  
答 山林隊カアリマス  
問 山林隊ハ幾人カ  
答 山林隊ハ三十名テス  
問 山林隊ノ任務ハ  
答 木材輸送ノ保護テス  
問 木材ハ誰ノモノカ  
答 役所ノ木材テス  
問 公司カラ船ニ積ンタ木材ハ何處ニ行クカ  
答 虎頭ニ行キマスカ下流ニ行クノハ哈爾濱ニ行キマス  
以上訊問ハ打切り宿舍タル天幕舎ニ歸サレマシタソシテ天幕舎生活ヲ十四  
五日シテカラ監房ニ移サレテ二十七日午後一時監房カラ出サレ衣類ノ洗濯  
ヲ命セラレ洗濯後病院ニ至リ身体検査シテカラ入浴セラレマシタ  
後ニ監房ニ收容サレ二十八日午前零時頃起サレテオ前達ヲ明日滿洲國ニ歸  
スノタカ歸リタイカ如何ト尋ネラレマシタカラ歸リタイト申シマシタ原籍  
ト家族ノ事モ聞カレマシタ

歸ツテカラオ前達ハ又警察官ニ成ルカ如何カト言ハレマシタノテ成リマス  
ト答ヘマシタラ歸ツテ良イト歸サレマシタ  
二十八日午前七時ニ起サレ一人一入寫眞ヲ撮影後三人ハ一諸ニ護衛サレテ  
貨物自動車ニテ三時間ニシテ「ワシリエシカヤ」ニ到マシタ  
午前十一時カ十二時頃テシタ「ワシリエシカヤ」ナル事ハ地形ヤ其ノ他テ  
知リマシタ  
自動車カラ降リルト蘇聯警備艇ニ移サレ三時間位居テ艇ハ出航シ十分位ニ  
シテ停船シ十分位待チ居タ様テスカ離洲國側ノ出迎艇カ來ヌノテ警備艇ハ  
再度元ノ出航地點ニ歸着艇内ニ待ツコト二時間位テ艇ハ出航ス  
十分位航行シテカラ元地點ニ歸着シ私達ハ貨物自動車ニ乘セラレ其晚ハ  
自動車内ニ宿泊ス  
二十九日一日同地滞留翌日三十日午前八時頃同地出發察々道ヲ進ツテ元ノ  
監房ニ再度收容サレマシタ六日間位居リマシタカ其ノ間ハ前(二十八日)  
ト異リ食糧モ恵ク待遇ハ冷遇サレマシタ  
五日午前八時頃監房ノ東側ニ廻テ一滿里半位テ江岸ニ出テソレカラ警備艇

ニ乗セラレ三時間位航行シテ「ワシリエシカヤ」ニ午前十一時半頃到着シ  
二時間休憩シテカラ大キイ警備艇ニ乗換ヘサセラレテ五日滿洲國側ニ引渡  
サレタ地點ニ参リマシタ十分位待ツテ居ルト滿洲國側カラ引取交渉員カ来  
タノテ取引渡サレマシタ

供述者 董 祥 林 ㊟

右錄取シ謄開カセタルニ相違ナキ旨申立署名捺印シタリ

泰德七年八月七日

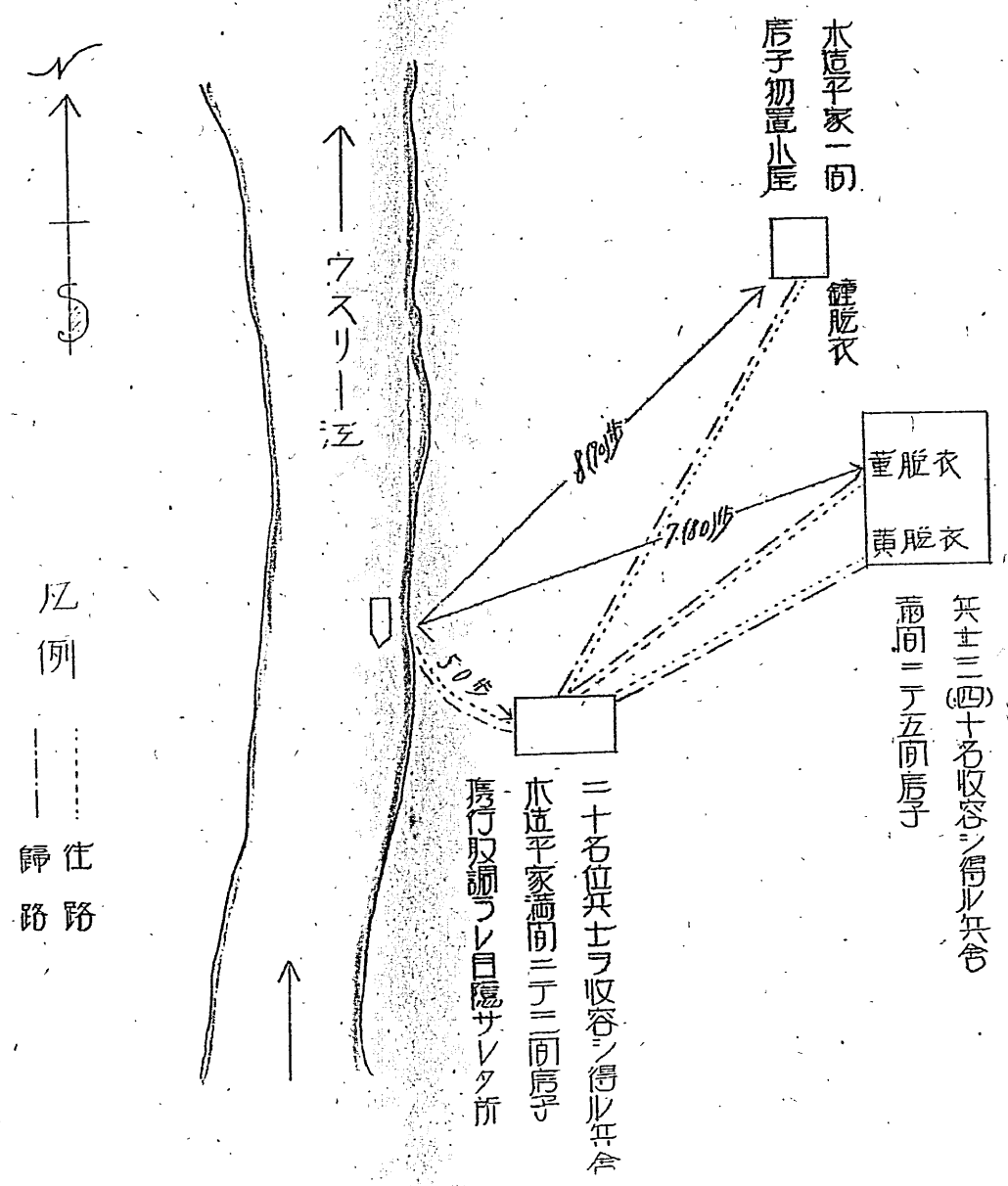
虎頭警備隊  
司法警察官警佐 佐々木四郎 ㊟

本信寫送付先  
外務大臣 在滿各公館長

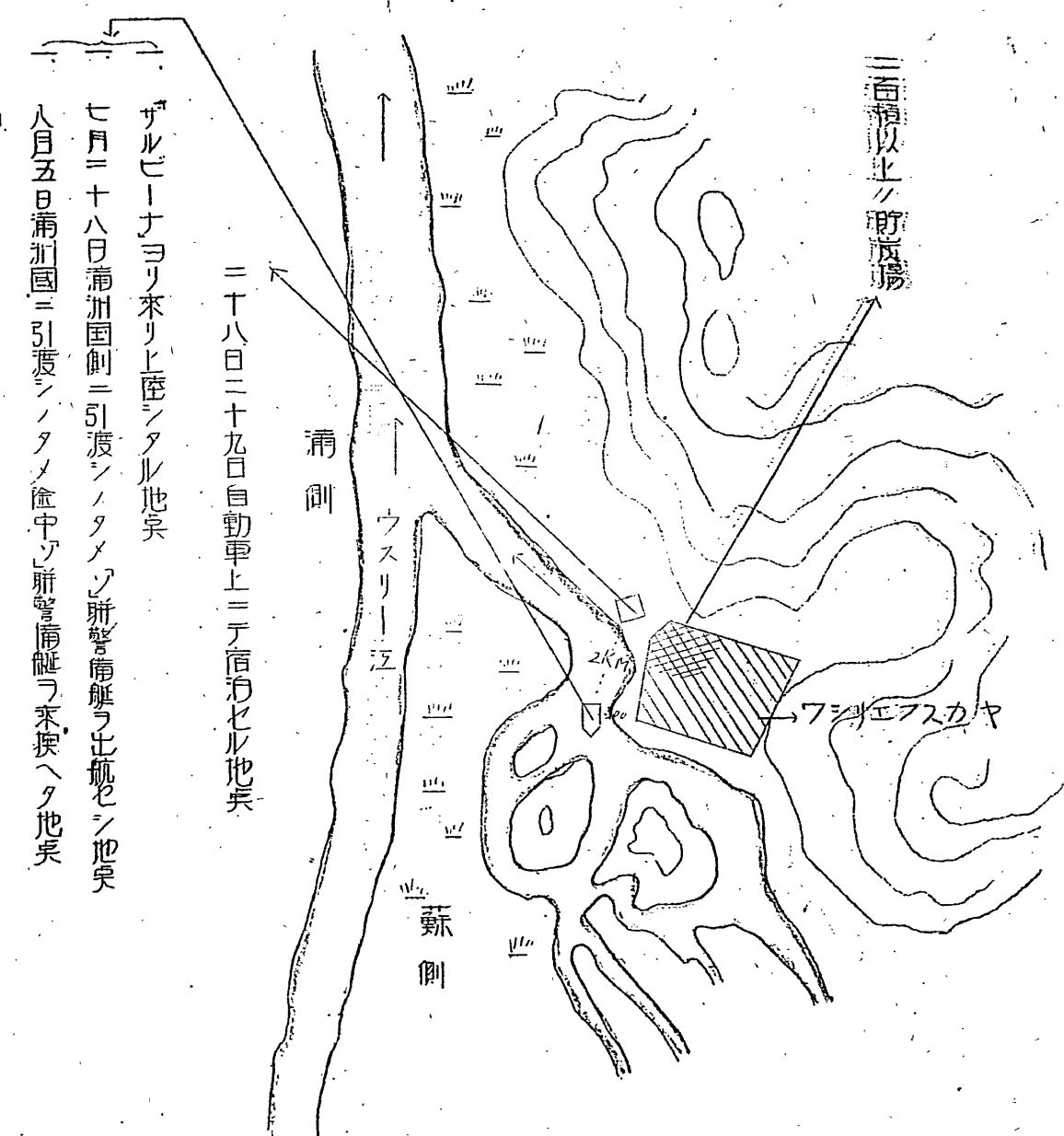
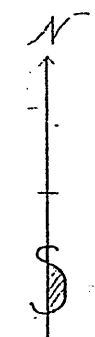
2/

# ザルビーナ見取図

被取致警察官ノ供述ニ依ル同地国境警察隊ノトス



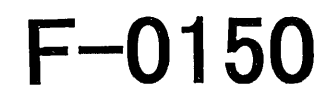
ワシエフスカヤ見取図



ザルビーナヨリ来リ上陸シタル地矣  
 七月二十八日滿洲国側ニ引渡シノタメソ聯警備艇ヲ出航セシ地矣  
 八月五日滿洲国ニ引渡シノタメ陸中ソ聯警備艇ヲ來換ヘタ地矣  
 備考

何等埠頭ノ設備ナヤモ平素埠頭トシテ使用シタルガ如シ  
 (被拉致警備官ノ供述ニ基キ作製セル見取圖)

天竺國



0284